

株主の皆様とテクマトリックスをつなぐIRマガジン「テクマティズム」

# TECHMATISM

TechM@trix

証券コード 3762

第33期 報告書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

*Insight into the future*

いたるところで  
テクマトが。



テクマトリックス株式会社

# 高付加価値なクラウドサービスを自らエンドユーザーに提供していく

## 情報基盤事業

海外の最先端技術・製品に自社技術を組み合わせたネットワーク・セキュリティのソリューション提供及び保守、運用・監視サービス

### Pickup 2

#### ■ コンタクトセンターCRM

顧客満足度を向上させ、企業価値をさらに高める為のCRMソリューションを提供。

#### ■ ネットワーク

コンサルティングからネットワークの構築、運用、保守まで、幅広い対応力で信頼性の高いインターネットインフラを設計・構築。

### Pickup 3

#### ■ セキュリティ

大切な情報資産を守り抜く、高度なセキュリティサービスをコンサルティングから導入、運用、保守まで幅広く提供。

#### ■ ソフトウェア品質保証

ソフトウェア開発における工数削減と品質向上を可能にする各種開発支援ツールと、チーム開発におけるエラーの予防・プロジェクト管理・品質管理を支援するソリューションを提供。

## アプリケーション・サービス事業

医療、CRM、インターネットサービス分野における自社パッケージ製品の開発及びクラウドサービスの提供、WEB、金融分野を中心としたシステムの受託開発、ソフトウェアの品質向上のための製品及びソリューションの提供

### Pickup 1

#### ■ 医療

医療の効率化・質の向上を目指し、医療現場のIT化を実現するソリューションを提供。

#### ■ 金融

金融機関向けのリスク管理システム、トレーディング管理システム、金融商品評価ツール等を提供。

#### ■ インターネットサービス

オープンソースソフトウェア(OSS)やWEB系最新技術を活用したシステム開発、ネットショップのバックオフィス業務を自動化するクラウドサービス、加えてBI(ビジネスインテリジェンス)ソリューションも提供。

テクマトリックスが  
提供する  
7つの  
ソリューション

- CRM
- Medical
- Financial
- Internet Service
- Software Quality Assurance
- Security
- Network

# ことを目指しています。

## Pickup 1

### 医療分野でソフトバンク株式会社と業務提携

ソフトバンク株式会社と提携し、医知悟が開発した専用通信機器「iCOMBOX」を用いた遠隔病理プラットフォームの提供を開始しました。医療機関と遠隔地の病理医をネットワークで接続することで、深刻な病理医不足を解消します。

## Pickup 2

### LINEが提供する「LINE カスタマーコネクト」の販売パートナー契約を締結

LINE株式会社が提供する「LINE カスタマーコネクト」の販売パートナー契約を締結しました。本製品は LINEを介して、AIや有人によるチャット対応や音声通話対応など、状況やニーズに応じた適切な顧客対応を実現するサービスです。

## Pickup 3

### AIを活用した次世代アンチウイルス製品「CylancePROTECT®」の販売開始

アメリカのCylance®, Inc.の「CylancePROTECT®」の販売を開始しました。巧妙化・高度化するサイバー攻撃に対し、最新のAI技術であるディープラーニングを用いて、既知のものだけではなく未知のマルウェアも検出。99.7%の検知率を誇る最先端のセキュリティ製品です。

## クラウドとは？

クラウド=雲のこと。インターネットを表す絵に雲を使っていた名残でインターネットを経由して利用できるサービスをクラウドと呼ぶようになりました。



## クラウドにより「所有」から「利用」へ

クラウドを身近な生活に当てはめてみます。たとえば私たちが普段の生活で使用する水。昔は個々の家の井戸から使っていましたが、現在では浄水場から供給され蛇口をひねると水が使えます。

これと同じことがコンピュータの世界でも実現されており、個別のコンピュータ上で利用されていたソフトウェアをクラウドから提供することにより、インターネットを通してそれらソフトウェアをみんなで利用することができます。



# SUSTAIN

中期経営計画の総仕上げとして  
新たな方向性を具現化し、  
次の成長につなげていきます。

代表取締役社長 由利 孝

## 当期(2017年3月期)を振り返って

当期の事業環境は、前半においては円高が影響し、製造業を中心にIT関連予算の抑制傾向が現れました。しかし、米国大統領選挙の結果を受けて円安に転じた後半には追い風の事業環境となりました。その中で当社の営業状況も、通年ではほぼ計画通りの成果を上げ、売上高及び各利益指標において過去最高を更新しました。情報基盤事業は、引き続きセキュリティ対策需要が官民ともに拡大しており、計画を上回る結果となりました。また、より巧妙化したサイバー攻撃に対応できるAI技術を応用した新しいセキュリティ関連製品や社内に潜むマルウェアを高速検索する製品等、市場からも評価の高い最先端の製品を市場に投入することができました。

アプリケーション・サービス事業では、製品の知名度向上により大型の案件を獲得したCRM分野は堅調に推移し、円高の影響を受けたソフトウェア品質保証分野も後半の追い上げで利益計画を超過達成しました。また、過去4年間先行投資として取り組んできた医療分野の「NOBORI」

# ABLE GROWTH

## 決算ハイライト

	2016年3月期(実績)	2017年3月期(実績)	2018年3月期(予想)
売上高	20,920百万円	21,996百万円	24,000百万円
営業利益	1,381百万円	1,643百万円	2,000百万円
経常利益	1,420百万円	1,626百万円	2,200百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	829百万円	1,018百万円	1,400百万円
1株当たり配当金	10円	15円	18円

### 当期業績のポイント

- 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益：2期連続で過去最高を更新。
- 配当金：当期の業績の利益水準を踏まえて、配当金は前期から1株当たり5円増配し、15円に。

は利用実績の拡大にともない口コミによる知名度が向上し、利用施設数の増加が加速しています。第3四半期以降は単月黒字に転じ、計画通り通年で黒字化を遂げました。しかし、インターネットサービス分野は、大型案件を獲得したものの、クラウドサービス開発への投資が少々重荷となりました。

重点課題であるストック型ビジネスモデルへのシフトについては、情報基盤事業で売上高ストック比率は適正水準である37.9%、よりストック比率をより高めることを目標としているアプリケーション・サービス事業はクラウドサービスの伸長により前期を上回る45.8%となりました。

### 中期経営計画「TMX 3.0」の進捗状況

今後進むべき方向性と戦略を明確化した中期経営計画「TMX 3.0」は、当期までの2年間で各分野において、業績目標の達成をもって変革による成長を実証してきました。

事業戦略に掲げた「クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進」については、CRM分野においては順調に案件獲得が進みました。計画成否の分岐点と位置付けてきた医療分野の当期での黒字化も果たし、契約の積み上げによる次年度での収益寄与が期待できるまでになりました。引き続きインターネットサービス分野でのクラウドサービスの立ち上げや、情報基盤事業におけるクラウドを活



用したサービスなど新たな展開を進めています。

もう一つの事業戦略である「セキュリティ&セイフティの追求」については、前述のAI技術や高速検索技術を導入したサイバーセキュリティ対策の高度化や、IoT時代の組込みソフトウェアの機能安全実現など、新技術への対応を強化し、業績の拡大につなげていきます。

こうした取り組みの中で、特にここ数年間で急速な進化を遂げたAI技術が、ビッグデータの活用と結び付く形でソリューションの対象領域を拡げており、事業戦略において重要な位置を占めるようになってきました。

一方、オペレーション戦略では、ベトナムや中国におけるオフショアを利用したソフトウェア開発のコストダウンが成果を上げている他、国内営業拠点の移転など労働環境の改善による業務効率の向上も進んでいます。今後は、各分野におけるパートナー企業とのアライアンス強化を通じて、より効率的な事業展開を図っていきます。

### 今期(2018年3月期)の見通し

「TMX 3.0」の最終年度となる今期の業績は、事業戦略及びオペレーション戦略の着実な進展と計画目標値の達成を見込み、引き続き売上高及び各利益指標において過

去最高の更新を予想しています。当社は、2017年4月1日付で事業部門制による新組織体制に移行し、2つの事業部門に含まれる事業部をそれぞれ統括する形で「情報基盤事業部門」と「アプリケーション・サービス事業部門」を設置しました。組織マネジメントの単位をセグメント構成に一致させ、より事業戦略に沿った統治を行っていくことが目的です。

今後は新組織体制のもと、各事業部門において事業部門・子会社間の連携を強化し、人材育成面や技術面におけるシナジーを発揮させることで、「TMX 3.0」が目指す次世代のITサービスクリエイター / サービスプロバイダーへの転換を促進していきます。

### 株主の皆様にお伝えしたいこと

当期の期末配当は、配当性向20%以上を基本とする還元方針に基づき、当初の予定より引き上げ、1株当たり15円(配当性向25.6%)とさせていただきます。また、より多くの株主・投資家の皆様に保有していただくことを目的として、2017年3月1日付で1株を2株とする株式分割を実施しました。分割前の水準と比較すると、当期の期末配当は前期の1株当たり20円に対し、30円となり、10円の増配となります。

今期の期末配当は、業績予想の達成を前提として、3円増配の1株当たり18円を予定しています。当社にとって今期は、「TMX 3.0」を通じて着手した事業戦略の完成度を高めると同時に、次期中期経営計画におけるさらなる成長につなげていく重要な1年間となります。技術革新が続く時代の流れを先取りするために、当社はさらなるチャレンジを通じて自らを変革し、次の成長ステージに向けて飛躍してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも長きにわたるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## NEWS FLASH 2016



Medical

**4月11日**

新しい医療クラウドサービス「NOBORI-PAL」の提供開始



Security

**6月22日**

ネットワーク端末脅威対策プラットフォーム製品「Tanium Endpoint Platform」の販売開始



Internet Service

**7月15日**

BIツール「Yellowfin」の販売開始



Medical

**10月6日**

ソフトバンク株式会社と業務提携、病理専門医の遠隔からのコンサルテーション業務を支援するプラットフォームサービスの提供開始



Security

**11月4日**

ファイル無害化自動連携ツール「Votiro Auto Suite for FileZen」の販売開始



Medical

**11月16日**

インドのオンライン医療診療サービスベンチャーに資本参加



CRM

**11月30日**

LINE株式会社のカスタマーサポートサービスと「FastHelp5」との連携機能開発を開始

## NEWS FLASH 2017



CRM

**2月22日**

「FastHelp5」が株式会社BEDOREとシステム連携し、AI顧客サービスソリューションの提供開始



Security

**2月28日**

AIを活用した次世代アンチウイルス製品「CylancePROTECT®」の販売開始



Software Quality Assurance

**3月9日**

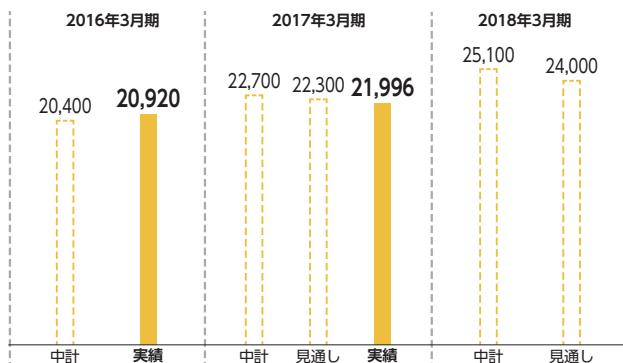
大規模ソフトウェア開発を支援するエンタープライズ版「CloudBees Jenkins Enterprise」の販売開始

# 中期経営計画「TMX 3.0」進捗状況

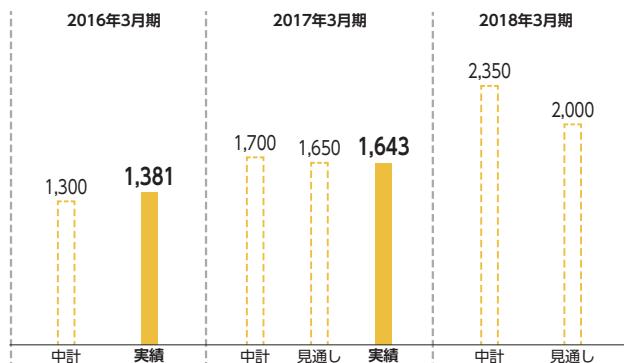
## 売上高及び営業利益は、概ね計画通りに進捗

売上高及び営業利益は中期経営計画(中計)策定時の計画を、2016年3月期は達成しました。2017年3月期は計画に僅かに未達でしたが、着実に成長を継続しています。2018年3月期につきましては、まずは業績見通しの達成を目指し、次期中期経営計画における成長につなげてまいります。

売上高(百万円)



営業利益(百万円)

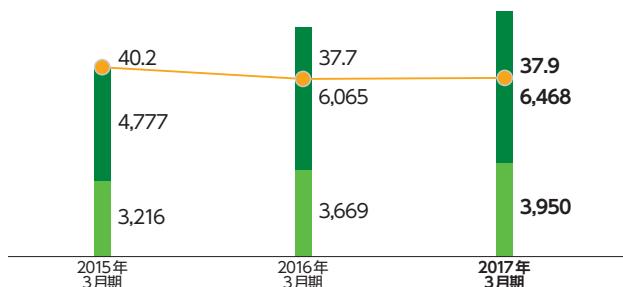


## ストック収益型ビジネスモデルへの移行が進展

ストック比率とは保守、運用・監視サービス、クラウドサービスの売上全体に対する比率です。情報基盤事業では製品販売とストック型売上をバランス良く成長させる40%程度が適切なストック比率です。アプリケーション・サービス事業ではクラウドサービスの売上高拡大により50%を目標としています。

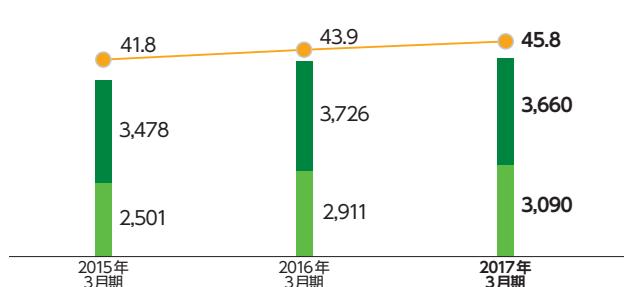
情報基盤事業 売上高(単体)

■ ストック ■ 非ストック (百万円)  
● ストック比率 (%)



アプリケーション・サービス事業 売上高(単体)

■ ストック ■ 非ストック (百万円)  
● ストック比率 (%)



## 重点施策

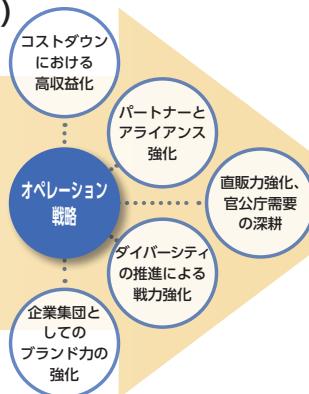
### 「TMX 3.0」: 次の30年に向けた土台固めと方向付け (成長遺伝子の確立)

#### 基本方針

従来のIT産業の労働集約的な請負型ビジネスから脱却し、自らITサービスを創造し、ITサービスを提供する「次世代のITサービスクリエイター」、  
「次世代のITサービスプロバイダー」への変貌を継続する

#### 事業戦略

クラウド関連事業の  
戦略的・加速度的推進  
セキュリティ &  
セイフティの追求



## 事業戦略の主な進捗

### クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進

#### クラウド事業による収益貢献

- ・ 医療クラウドが単月黒字化
- ・ FastCloud (CRM) が順調に推移
- ・ テクマクラウド (o365トラフィック制御) の提供開始
- ・ 楽楽アイテムマネージャーのリリース

#### Point

F5ネットワークスジャパン合同会社が提供するBIG-IPシリーズ上で動作するMicrosoft Office 365をより快適に利用できるサービスの提供を開始。

#### クラウド事業のプラットフォーム化(多角化)

- ・ NOBORI-PAL (提供サービスの拡充)
- ・ ソフトバンクと医知悟の提携による病理分野への進出

#### Point

「NOBORI-PAL」では、緊急時外部画像参照サービス「TSUNAGU」、検査予約サービス「TONARI」、医療向け音声入力サービス「AmiVoice® CLx」の提供を開始。今後も新しいサービスをリリース予定。

### セキュリティ & セーフティの追求

#### サイバーセキュリティ対策の高度化対応とワンストップ・サービス化

- ・ Swivel PINsafe、ProofPoint、Tanium Endpoint Platform、Votiro Auto Suite for FileZen、CylancePROTECT® の販売を開始

#### Point

アメリカのTanium Inc.のネットワーク端末脅威対策プラットフォーム製品「Tanium Endpoint Platform」の販売を開始。数千台、数十万台などの大規模なネットワーク端末環境において、各端末から高速で情報収集を行い、攻撃を受けた端末の特定や隔離などの対策を迅速に行う。

当社では、AI技術をより身近なサービスとして利活用するための取り組みを進めています。次のページでは読者の皆様に、当社の取り組みとともにAI技術についてわかりやすくご紹介をさせていただきます。

# テクマトリックスは、 国内のAI導入黎明期から 技術と経験を積み重ねてきました。

## 中島 裕生

システムエンジニアリング事業部  
フェロー シニアコンサルタント 工学博士



### 今注目されているAIは、 既に半世紀以上の歴史があります

Google DeepMind社が開発したAI(人工知能)、AlphaGo(アルファ碁)が、人間のプロ囲碁棋士を破るなど、AIに対して最近急速に注目が高まる第3次AIブームが到来しています。このAIブームは、第1次AIブームを起点として、既に半世紀以上もの歴史があります。

テクマトリックスでは、前身にあたるニチメンデータシステムの頃から、1980年代の第2次AIブームの火付け役となったシンボリック社のLISP専用機、エキスパートシステム構築ツール「ART」及びニューラルネットワーク開発ツール「NeuralWorks」の販売を通じて、国内製造業へのAI導入を積極的に支援し、技術と経験を積み重ねてきました。

そして、機械学習やディープラーニングを起爆剤とした、現在の第3次AIブームが到来。これは、第2次の時にはなかった高度な画像認識技術や、高速データ処理を可能とするGPU(Graphics Processing Unit)、クラウド化やビッグデータ処理など、AI開発環境が整備されたことで、これまで机上の

ものだったAI技術が、システムやデバイスに実装できるようになったことが背景となっています。

### AI技術は、日常生活の至る所に 導入されています

AIというと、皆さんは「ターミネーター」などのロボットやシステムを想像されるかもしれませんが、実は多くのAI技術が、日常使用されるIT技術の中にどんどん組み込まれています。例えば、スマホやデジタルカメラに実装されている画像の顔認識機能や音声認識機能は、過去にはAIと呼ばれた技術が組み込まれています。最近話題になっている自動車の自動運転にも、多くのAI技術が導入されていますが、完成すると自動運転技術と呼ばれ、AI技術ではなくなります。つまりAIは、単体として存在する技術や製品ではなく、日常生活の至る所に導入され、快適で便利で、安心して暮らせる社会の実現に貢献するIT技術の一部になりつつあるのです。

しかもAIのアルゴリズムをインターネットで情報公開することで、世界中の技術者がインターネットを通じてバグの発見や新たなアイデアやテクノロジーを追加修正するPDCAサイクルが急速に進み、開発スピードが劇的に速くなってきました。

## CRMシステムや次世代アンチウイルス製品に最適なAI技術を導入しました

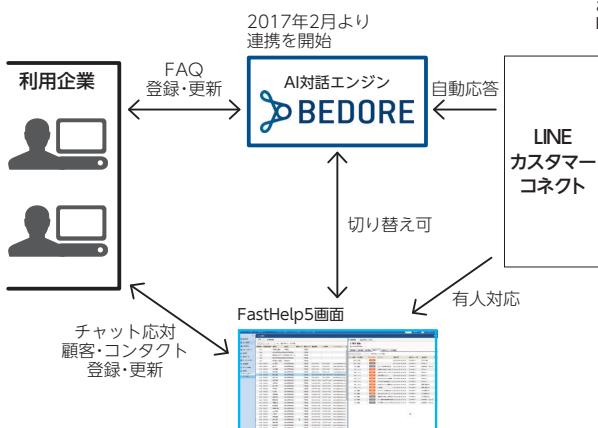
テクマトリックスは、これまでも様々な製品やサービスに、AI技術を導入してきました。CRM分野では、「FastHelp5」とLINEの法人向けカスタマーサポートサービス「LINE カスタマーコネク」連携した、顧客サービスソリューションの提供を開始しました。また、AI対話エンジン「BEDORE(ベドア)」と連携することで、AIによる自動応答も行うことができます。AIや有人によるチャット対応や音声通話対応などをシームレスに行い、状況やニーズに応じた適切なカスタマーコミュニケーションを実現します。

さらに最新のAI技術であるディープラーニングを活用した、次世代アンチウイルス製品「CylancePROTECT®」の販売を開始しました。高度なセキュリティが求められる制御系・勘定系・研究開発・個人情報取り扱いシステムは、IoTの進展に伴い外部のネットワークと繋がりはじめています。外部と繋がることでサイバー攻撃への脅威が高まりますが、「CylancePROTECT®」のような、既知のものだけではなく未知のマルウェアも検知し、防御できる製品はセキュリティ対策に有効です。

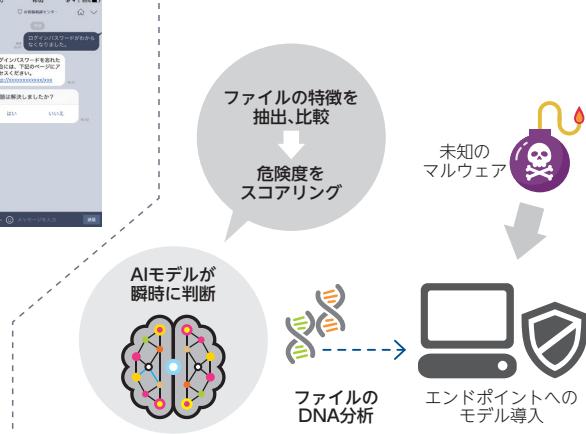
## AIを活用した新しいサービスの開発に向けて

前述の通り、当社は、創業間もない1980年代において、間違いなく当時の最先端のAI技術を提供していたソリューションプロバイダーでした。あれから約30年が経過しましたが、第3次AIブームと言われるこれからの5年～10年の間にAIやロボット技術は劇的に進化するでしょう。1980年代の第2次AIブームの時は、演繹型の推論が中心であったこと、また、当時のコンピュータの性能が現在と比べて著しく低かったことやコンピュータの価格が非常に高かったことなどから、AIが広く実用化されることはありませんでした。現在のAIは、オープンソースで提供される技術もあり、API(アプリケーション・プログラミング・インタフェース)化されているため、それらを外部からサービスとして活用することができます。当社においても、前述したネットワークセキュリティ分野やCRM分野だけでなく、医療などその他の分野においても、AIの利活用の可能性が議論されています。当社は過去の経験と蓄積を活かし、これからも積極的にAIの利活用を推し進めます。今後も、当社のAIへの取り組みに是非ご期待ください。

### CRMシステムとAI技術の連携イメージ図

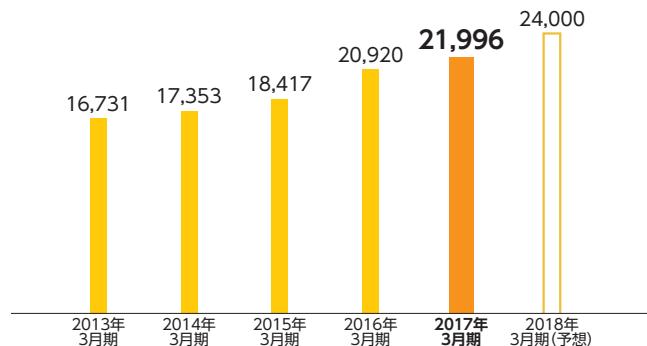


### 「CylancePROTECT®」イメージ図

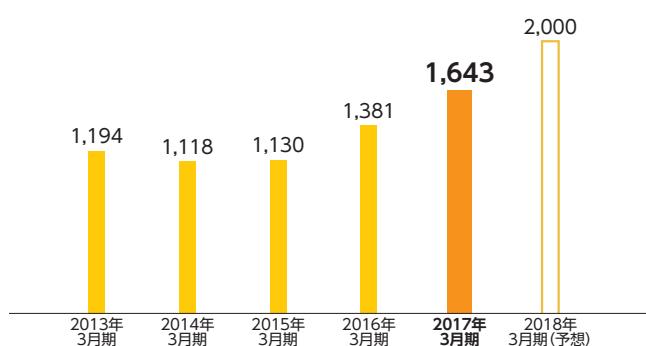


損益の状況／資産の状況

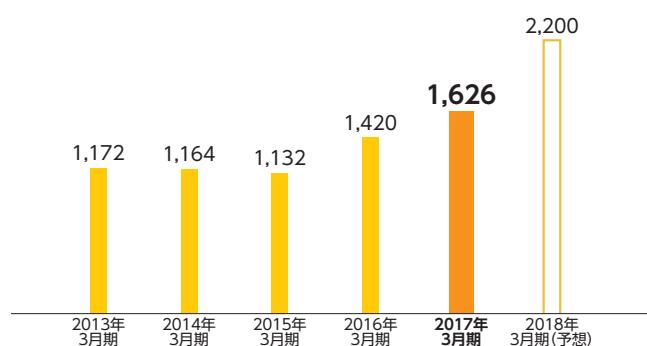
売上高 (百万円)



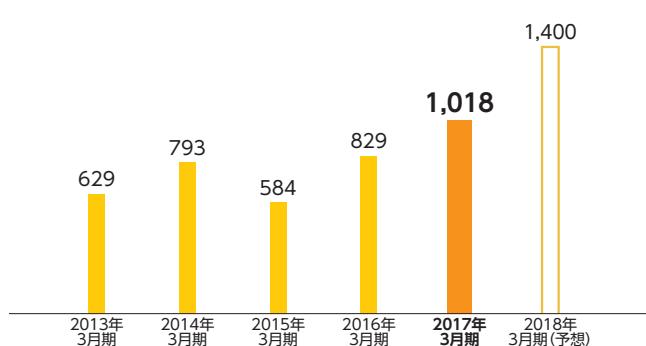
営業利益 (百万円)



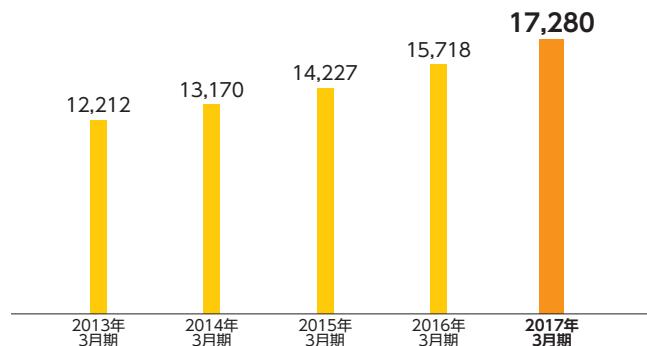
経常利益 (百万円)



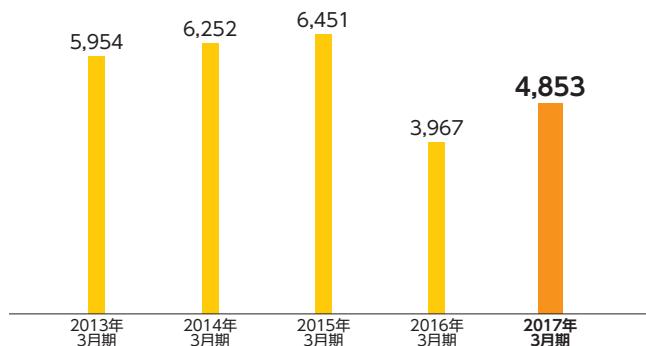
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



総資産 (百万円)

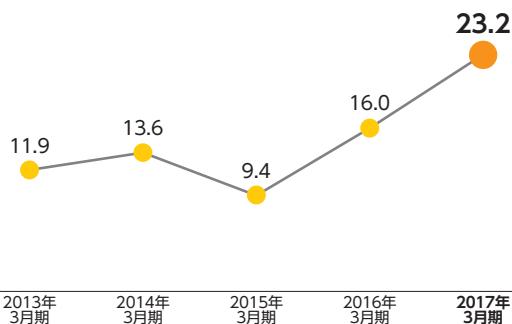


純資産 (百万円)

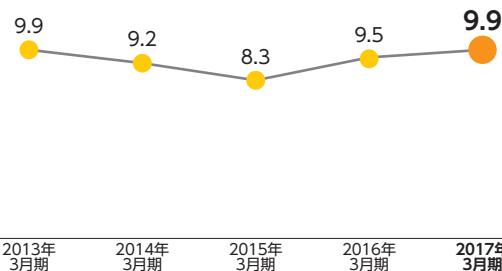


## 収益性・安定性・1株当たりデータ

### 自己資本当期純利益率(ROE) (%)



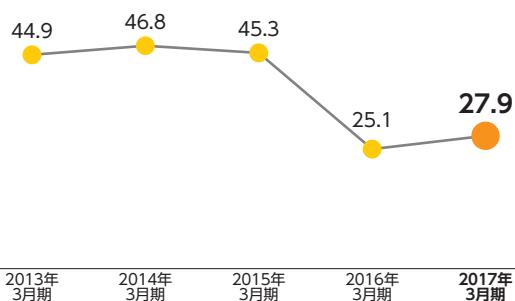
### 総資産経常利益率(ROA) (%)



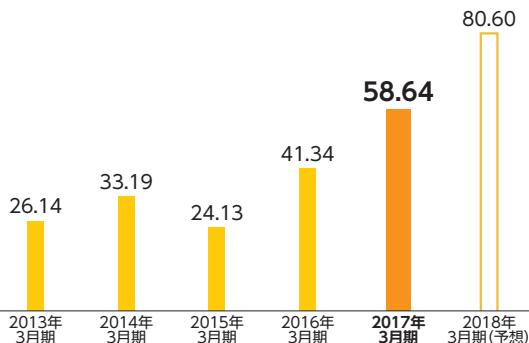
### 売上高営業利益率 (%)



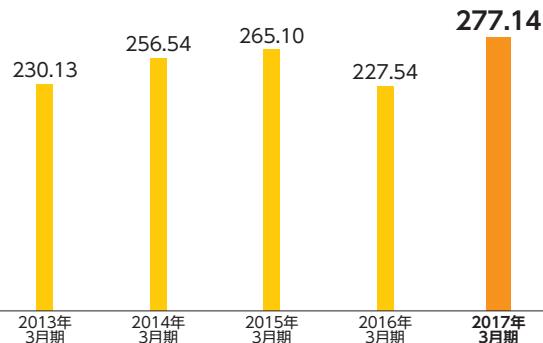
### 自己資本比率 (%)



### 1株当たり当期純利益(円)



### 1株当たり純資産(円)



※1 純資産、自己資本比率の減少は2015年8月21日に実施した自己株式取得によるものです。

※2 2017年3月1日を効力発生日として、株式1株につき2株の株式分割が行われたため、それ以前の1株当たり当期純利益を調整しております。

※3 2017年3月1日を効力発生日として、株式1株につき2株の株式分割が行われたため、それ以前の1株当たり純資産を調整しております。

## ■ 会社概要 (2017年3月31日現在)

商号 テクマトリックス株式会社  
(英語名：TECHMATRIX CORPORATION)  
設立 1984年8月30日  
上場 2005年2月18日  
証券コード 3762  
資本金 12億9,812万円  
従業員数 1,004名(連結)  
本社所在地 〒108-8588 東京都港区三田3-11-24  
国際興業三田第2ビル  
TEL：03(4405)7800(代表)  
FAX：03(6436)3500

## ■ 株式の状況

発行可能株式総数 82,944,000株  
発行済株式の総数 24,759,200株  
株主数 3,668名

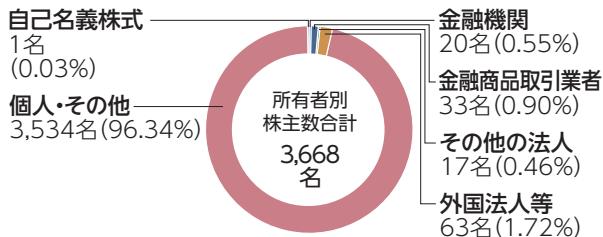
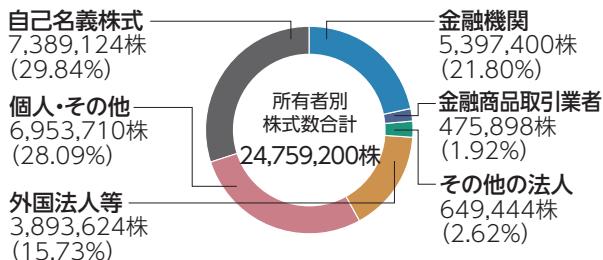
## ■ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
テクマトリックス株式会社	7,389,124	29.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,237,500	13.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,125,500	4.55
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/ LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	1,000,000	4.04
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	790,397	3.19
徳山 教助	707,600	2.86
テクマトリックス従業員持株会	635,800	2.57
熊谷 恵美	427,000	1.72
KBL EPB S.A. 107704	333,300	1.35
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	326,200	1.32

## ■ 役員の状況 (2017年6月23日付)

代表取締役社長 由利 孝  
取締役上席執行役員 依田 佳久  
取締役上席執行役員 矢井 隆晴  
取締役執行役員 鈴木 猛司  
社外取締役 安武 弘晃  
社外取締役(常勤監査等委員) 佐々木英之  
社外取締役(監査等委員) 高山 健  
社外取締役(監査等委員) 三浦 亮太  
社外取締役(監査等委員) 杉原 章郎

## ■ 株式分布状況



当社の  
最新情報は

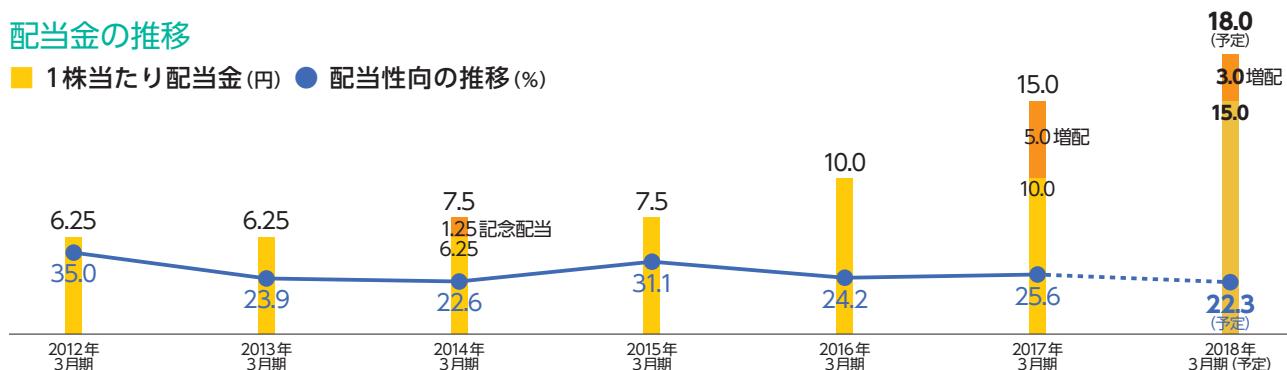
テクマトリックス IR

検索

<http://www.techmatrix.co.jp/ir/>

## 配当金の推移

■ 1株当たり配当金(円) ● 配当性向の推移(%)



※2013年4月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行い、さらに2017年3月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っています。そのため2012年3月期期首にこれら株式分割が行われたと仮定して、配当金を表示しています。

※2018年3月期の配当性向は、2018年3月期の業績予想と、2018年3月期の期中平均株式数で算出しています。

## 利益配分に関する基本方針

当社は、株主価値の向上の一環として株主に対する利益還元を重要課題と位置付けております。利益配分に関する基本方針は、株主への利益還元と内部留保充実のバランスを総合的に判断し、決定しております。配当政策としては、期末業績における連結での配当性向20%以上を基本方針としております。この方針に基づき、2017年3月期の配当は1株につき12.5円を予定していましたが、当期業績の利益水準を踏まえて、2.5円増配の1株につき15円といたしました。なお、2018年3月期につきましては、3円増配の18円とする予定です。

## 株主優待のご紹介

対象

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された500株以上の当社株式を保有する株主様

優待内容

500株以上

1,000円相当の商品または寄付

1,000株以上

3,000円相当の商品または寄付

人気が高い商品を中心に、より皆様にお喜びいただける内容を目指しています。

当社は、毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式を500株以上保有する株主様を対象に株主優待を実施しております。保有株式数に応じた価格帯から、お好きな商品または寄付を1点お選びいただく内容となっております。

### 株主優待の一例



ミヤチク 宮崎県産黒毛和牛 焼肉用



横浜本牧亭 ビーフカレー中辛



十勝スイーツアイス

※写真はイメージであり、実際の商品と異なる場合がございますのでご了承ください。

# Topics



## 下大川綾華が 全日本フェンシング 選手権で優勝



当社の下大川綾華が、2016年12月2日に開催された第69回全日本フェンシング選手権大会女子エペの部で優勝しました。

さらに2017年3月25日・26日にハンガリー共和国ブダペスト市で開催されたワールドカップ ハンガリー大会女子エペの部で銅メダルを獲得しました。



右：下大川綾華

©Fencingfan

### 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 株主優待 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) 東京証券取引所市場第一部
上場証券取引所	

**公告の方法** 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告による事ができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
公告掲載URL <http://www.techmatrix.co.jp/>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承る事となっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。  
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### テクマトリックス株式会社 証券コード：3762

〒108-8588 東京都港区三田3-11-24 国際興業三田第2ビル  
TEL：03(4405)7800(代表) FAX：03(6436)3500

